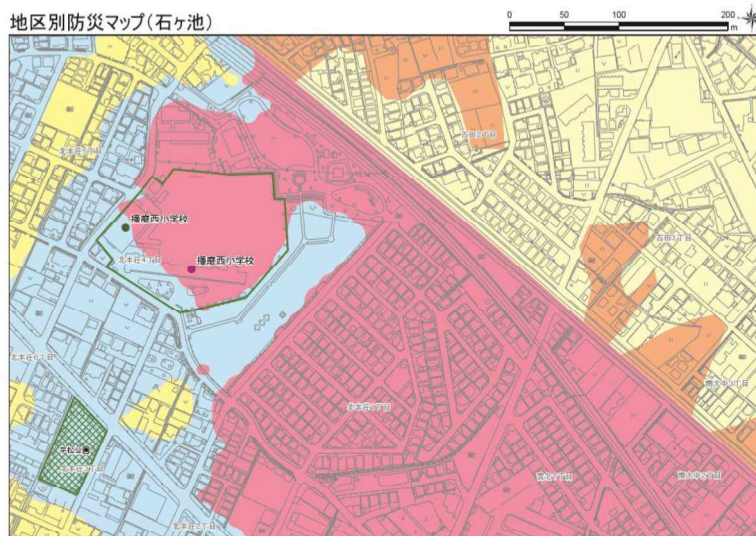


ここがポイント！ 播磨町モデルは避難訓練実施地域 先行決定スタイル！

播磨町は、モデル自治会を先行決定してスタート！
この地区ならできると考えられる地域がある場合に、事業を進めていきやすい方法です。
モデル自治会での取り組みを、周囲の自治会にも見てもらう機会を持てば、市町内全域展開のイメージもできやすくなるでしょう。

地域モデルⅠ～播磨町での取り組み



播磨町石ヶ池地区防災マップ:ピンクの地域は津波避難対象地域
石ヶ池地区は全域が避難対象地域となっている
(播磨町Webページ掲載の防災マップより)



播磨町での取り組みについて

播磨町は、町内各自治体により高齢化率や生活様式に違いがある。本事業では、まず今後各地域に取り組みを拡大していくための実施事例になるよう、防災意識が高く住民の自治会運営にも協力が期待できる地域をモデル自治会として定め取り組んでいる。モデルとなっている石ヶ池地区は、昭和50年ごろにため池を埋め立てて造成された住宅地であり、当時入居した世代は高齢者の域に入る方も多い。また、造成当時新築された家も残るが、当時の耐震基準は旧基準であるため、震災においては脆弱さが懸念される。播磨町は臨海し、南海トラフ地震等大きな地震の際には、津波は町南部の大部分に達すると見込まれる。ハザードマップによると、石ヶ池地区も津波が達する地域であり、また、近隣を流れる加古川の氾濫が起った際にも浸水する危険性が指摘されている。震災・豪雨や台風などの水害の両方に対し危険があり、防災に関する関心も高い地域である。

播磨町関係者と兵庫県社会福祉士会の会議・研修開催実績は以下の通りである。兵庫県社会福祉士会は、事業の流れに沿って会議や研修会を実施するための支援を行った。会議・研修会開催に向けて、播磨町内での調整は播磨町の福祉・危機管理担当職員らによって実施された。研修講師の調整は主に兵庫県社会福祉士会が担った。災害時個別支援計画と住民説明のためのエコマップは、担当相談支援専門員らが個別に取り組み作成している。

実績

実施時期	対象	内容
5月15日(火)	必須	○播磨町関係者との打ち合せ ①【播磨町関係者】 役割やスケジュールを理解する
7月15日(日)	地域住民	○石ヶ池地区住民対象 「住民向け福祉理解研修」 ②【モデル地域】 住民の理解を深める
10月4日(木)	地域住民	○第1回ワークショップ ③【モデル地域】 住民と知り合い、災害時個別支援計画について理解する
10月18日(木)		○相談支援専門員との打ち合せ
11月15日(木)	地域住民	○第2回ワークショップ 準備
1月6日(日)	地域住民	○石ヶ池地区対象者の 災害時個別支援計画 を使った「避難訓練」 ④避難訓練
1月6日(日)	地域住民	○第3回ワークショップ ⑤【モデル地域】 振り返り
2月26日(火)	関係者	○第4回ワークショップ

備考	<p>播磨町は、避難訓練実施地域を先行決定すると同時に災害時個別支援計画を策定する対象者を決定した。</p> <p>地域は自治会活動の活発さや、防災・避難訓練に対する関心の様子を考慮して検討、決定されている。また、災害時個別支援計画策定のモデルとなる対象者の選定は、今回は障害者対象として取り組むことが決まっていたことから、モデル地区内に住む方で、相談支援専門員が普段の障害支援サービス利用の計画を策定していること、地域住民へ障害についてオープンにしていだけることを考慮し、決定されている。</p> <p>モデル地域と対象者の決定後、当該地域で住民の防災意識を高めるとともに、福祉専門職と地域住民らによって災害時個別支援計画を確認するためのワークショップを開催した。地域住民と福祉専門職が協力し、ワークショップにおいて対象者となった方へのアセスメントや避難の方法等を検討した。</p> <p>また、避難訓練の実施について、日時や集合場所も確認し、避難訓練の実施に至っている。</p>
----	---